

千年の草原の継承と創造的活用総合特区

[指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4+3.8)/2=3.9$

3.9

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	①草原管理面積 ②野焼き再開牧野数	99%	5
2	牛馬の放牧頭数	-	4
3	①観光入込総数 ②阿蘇地域の宿泊客数	-	4
4	あか牛肉料理認定店数	96%	4
5	草原体験利用者数	-	3

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 3 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 5 = 4$

4.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.8

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(4+3+4.3)/3=3.8$

3.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.3

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.8

- ・野焼き保険の創設は総合特区からの1つの成果といえる。
- ・あか牛肉料理店以外の畜産物の地産地消のアイデアが必要な時期に来ているように思う。
- ・熊本地震とコロナ禍の影響で数値目標の達成が厳しい状況があったが、取組を継続し、観光に関わる指標が大きく回復してきている。
- ・一方で、担い手の高齢化や後継者不足への対策も必要であり、官民連携による人的・金銭的支援の検討などを是非とも進めていただきたい。
- ・いくつかの指標は、目標を下回るものの、コロナ禍を経て増加基調にあり、評価できる。
- ・しかし、これらの指標を含めほとんどの指標について(草原管理面積等)、進捗状況に係る自己評価の記載内容が不十分であり、精確な評価を行いにくい。
- ・過去の事実の羅列ではなく、当該年度の進捗状況について、どのように分析及び評価をしているか、明記されたい。
- ・地震災害や感染症の影響を乗り越え、観光入込総数や宿泊客数が回復しつつあり、草原活用及び草原再生を基に持続可能な観光を目指す地道な取組の成果が現れている。
- ・草原の新たな活用の在り方を時間軸を含めて段階的に検討することも視野に、継続的な取組を期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.8

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(3.9+3.8+3.8 \times 2) \div 4 = 3.8$

3.8

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。